

トルコ共和国  
地震災害救済  
国際緊急援助隊救助チーム  
報告書

平成12年3月

JICA LIBRARY



J1160128(3)

国際協力事業団  
国際緊急援助隊事務局

緊
J/R
99-9







トルコ共和国  
地震災害救済  
国際緊急援助隊救助チーム  
報告書

平成12年3月

国際協力事業団  
国際緊急援助隊事務局



1160128(3)

## 序 文

日本国政府は、平成 11 年 8 月 17 日、トルコ西部で発生した地震による災害に対して、トルコ共和国（以下、トルコと略す）政府からの要請に基づき、国際緊急援助を行うことを決定しました。

これを受けて国際協力事業団は、平成 11 年 8 月 17 日から 8 月 24 日まで国際緊急援助隊救助チームを現地に派遣しました。

救助チームは、8 月 19 日、同チームとしては初めて生存者を救出するなど、活発な救助活動を被災地で行い、その活動はトルコ政府だけでなく国際社会からも高い評価を得ました。本報告書はその活動結果をとりまとめたものですが、今後のわが国の救助活動の参考になることを期待します。

終わりに、本救助チームの活動にご協力とご支援をいただいた関係者の皆様に対し、心から感謝の意を表します。

平成 12 年 3 月

国際協力事業団  
理事 阿部 英樹





写真1 取材に応じる救助隊員

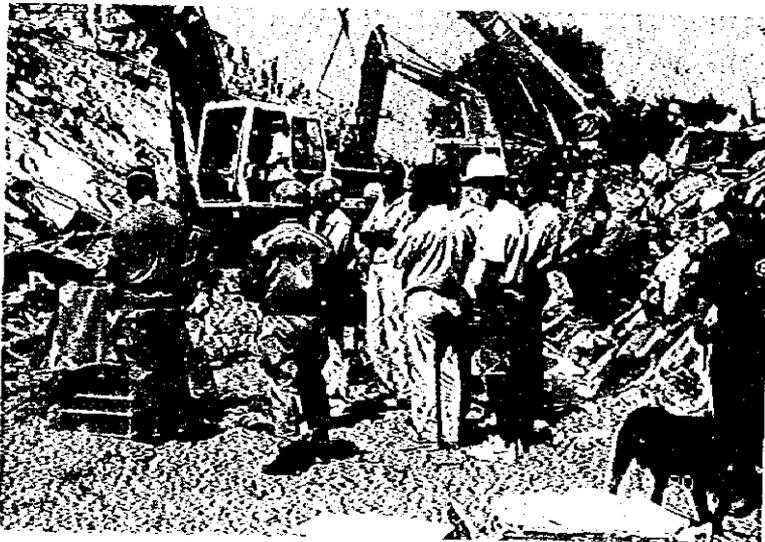


写真2 ヤロヴァでの活動状況



写真3 ヤロヴァでの建物被害状況



写真4 ヤロヴァでの建物被害状況

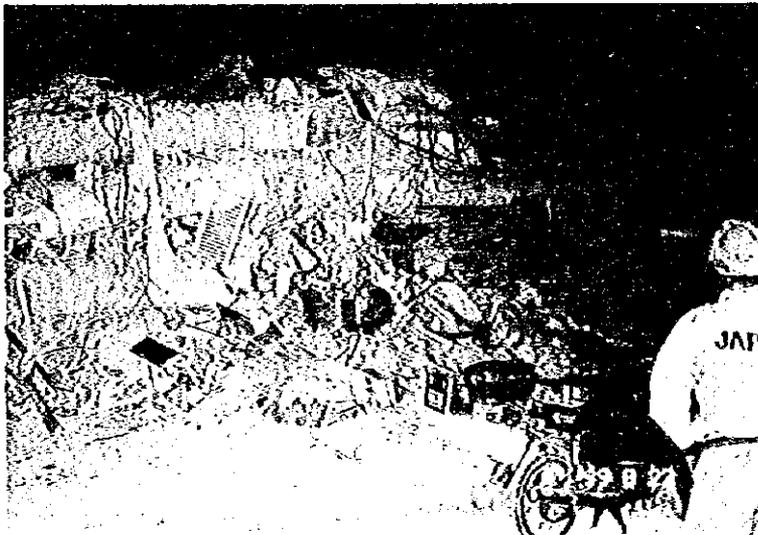


写真5 ヤロヴァでの夜を徹した活動状況



写真6 ヤロヴァでの夜を徹した活動状況

# 目 次

序 文  
地 図  
写 真

1. 災害概要 .....	1
2. トルコ政府及び我が国の対応 .....	2
3. 活動日程 .....	3
4. 隊員リスト .....	4
5. 団長所感 .....	7
6. 活動内容 .....	9
(1) 活動期間 .....	9
(2) 活動区域 .....	9
(3) 要救助者の発見・救出状況 .....	9
(4) 活動体制 .....	9
(5) 特記事項 .....	9
(6) 活動概要 .....	10
(7) 活動経過 .....	12
卷末資料	
新聞記事 .....	43



## 1. 災害概要

トルコのイスタンブールを含む西部地域で、現地時間平成 11 年（1999 年）8 月 17 日午前 3 時 2 分（日本時間同日午前 9 時 2 分）にマグニチュード 7.4 の地震が発生した。震源地はイスタンブールから東方約 110km、コジャエリ県イズミット市付近。本震後も余震が続いたため、イズミット市、アダパザル市、イスタンブール市を中心に人的、物的両面で甚大な被害が生じた。日本時間 9 月 12 日時点での被害状況は、トルコ政府危機管理センターによれば死者 15,466 人、負傷者 23,954 人となっており、被害は一段と増えてきている。最も甚大な被害を受けたキルジュック市からアダパザル市に至る約 30km の地域では家屋の 6 割近くが全壊し、50 万人を越える全住民が住居を失っていると伝えられている。トルコ政府筋は最終的な死亡者数を約 4 万人と予測している。

## 2. トルコ政府及び我が国の対応

トルコ政府は首相府、軍部を始めとして政府各機関で緊急対策本部を設置するとともに、エジェヴィト首相他関係関係は情報収集及び緊急対策の陣頭指揮にあたった。また、被害の甚大さに鑑みトルコ外務省は我が国に対し、国際緊急援助隊（救助チーム及び医療チーム）の派遣、緊急援助物資供与の要請を行った。

この要請を受け、外務省は8月17日（火）21時40分に大蔵省との協議を了し、トルコに対する国際緊急援助隊救助チームの派遣を以下の通り決定した。

- (1) 派遣目的：トルコ西部地域で地震災害により被害を受けた負傷者等に対して、トルコ関係機関及び他国援助機関と協力し、被災者の捜索、発見、救出、応急措置、安全な場所への移送及びこれらに関連した活動を行う。
- (2) 派遣期間：先発隊 平成11年8月17日～8月24日（8日間）  
後発隊 平成11年8月18日～8月24日（7日間）
- (3) チーム構成：計39名  
外務省（団長）、消防庁25名、海上保安庁7名、業務調整員（JICA）6名（業務調整員のうち2名は在外事務所から参加）

### 3. 活動日程

月日	時刻	実施内容等
8月17日	3:02	地震発生
	21:55	救助チーム（先発隊）成田空港出発
8月18日	14:25	イスタンブル空港到着
	19:20	ヤロヴァ港到着
	19:45	現地対策本部到着
	20:00	現地対策本部からカハラマンラル地区での救助活動の要請を受け救助活動開始
8月19日	4:00	1日目の活動終了
	5:00	後発隊現地対策本部到着
	6:00	2日目の活動開始（拠点を現地対策本部に移す）
	12:38	生存者救出完了
	18:44	2日目の活動終了
8月20日	8:00	3日目の活動開始
	9:20	本隊と指揮本部残留隊に分かれ、本隊はチフトリックキョイ地区に出発
	16:02	本隊本部に帰着
	20:00	3日目の活動終了
8月21日	7:54	4日目の活動開始
	16:00	ドナー各国責任者と現地対策責任者とで撤収時期について打ち合わせ
	22:00	明朝までの活動続行決定をヤロヴァ県知事に報告
8月22日	8:00	白川団長が現地対策本部責任者に対し救助チームの活動内容・終了の報告を行う
	18:35	チーム内で総括会議
8月23日	10:00	石堂総領事に対し活動報告を行う
	15:25	イスタンブル空港出発
8月24日	13:31	成田空港到着

時刻は全て現地での時間

#### 4. 隊員リスト

氏名 (NAME)	所属先・役職 (OCCUPATION)	指導科目 (ASSIGNMENT)
白川 光徳 Mr. Mitsunori Shirakawa	外務省国際緊急援助室 OVERSEAS DISASTER ASSISTANCE DIVISION, MINISTRY OF FOREIGN AFFAIRS	団長 LEADER
北出 正俊 Mr. Masatoshi Kitade	自治省消防庁 FIRE AND DISASTER MANAGEMENT AGENCY, MINISTRY OF HOME AFFAIRS	総括官 CAPTAIN GENERAL
高橋 智章 Mr. Tomoaki Takahashi	東京消防庁 TOKYO FIRE DEPARTMENT	隊長 CAPTAIN
川越 功一 Mr. Koichi Kawagoe	海上保安庁 JAPAN COAST GUARD	隊長 CAPTAIN
丸田 茂男 Mr. Shigeo Maruta	東京消防庁 TOKYO FIRE DEPARTMENT	救急救助 RESCUE
榎本 暁 Mr. Akira Enomoto	東京消防庁 TOKYO FIRE DEPARTMENT	救急救助 RESCUE
湯田 喜智 Mr. Yoshitomo Yuda	東京消防庁 TOKYO FIRE DEPARTMENT	救急救助 RESCUE
持丸 富夫 Mr. Tomio Motimaru	東京消防庁 TOKYO FIRE DEPARTMENT	救急救助 RESCUE
菊地 眞紀夫 Mr. Makio Kikuchi	東京消防庁 TOKYO FIRE DEPARTMENT	救急救助 RESCUE
大澤 晃 Mr. Akira Osawa	東京消防庁 TOKYO FIRE DEPARTMENT	救急救助 RESCUE
石田 孝二 Mr. Koji Ishida	東京消防庁 TOKYO FIRE DEPARTMENT	救急救助 RESCUE
羽田野 清 Mr. Kiyoshi Hatano	市川市消防局 ICHIKAWA MUNICIPAL FIRE DEPARTMENT	救急救助 RESCUE
村田 義弘 Mr. Yoshihiro Murata	市川市消防局 ICHIKAWA MUNICIPAL FIRE DEPARTMENT	救急救助 RESCUE
伊藤 聡夫 Mr. Akio Ito	川崎市消防局 KAWASAKI MUNICIPAL FIRE DEPARTMENT	救急救助 RESCUE
鈴 伊知郎 Mr. Ichiro Suzu	川崎市消防局 KAWASAKI MUNICIPAL FIRE DEPARTMENT	救急救助 RESCUE
吉村 秀久 Mr. Hidehisa Yoshimura	川崎市消防局 KAWASAKI MUNICIPAL FIRE DEPARTMENT	救急救助 RESCUE

氏名 (NAME)	所属先・役職 (OCCUPATION)	指導科目 (ASSIGNMENT)
松本 智禎 Mr. Tomoyoshi Matsumoto	川崎市消防局 KAWASAKI MUNICIPAL FIRE DEPARTMENT	救急救助 RESCUE
古谷 健太郎 Mr. Kentaro Furuya	第三管区海上保安本部羽田特殊救難基地 SPECIAL RESCUE STATION, 3rd REGIONAL COAST GUARD HEADQUARTERS	救急救助 RESCUE
池田 学 Mr. Manabu Ikeda	第三管区海上保安本部羽田特殊救難基地 SPECIAL RESCUE STATION, 3rd REGIONAL COAST GUARD HEADQUARTERS	救急救助 RESCUE
石川 繁 Mr. Shigeru Ishikawa	東京消防庁 TOKYO FIRE DEPARTMENT	救急救助 RESCUE
安達 広 Mr. Hiroshi Adachi	東京消防庁 TOKYO FIRE DEPARTMENT	救急救助 RESCUE
福原 昭彦 Mr. Akihiko Fukuhara	東京消防庁 TOKYO FIRE DEPARTMENT	救急救助 RESCUE
三宮 昭太 Mr. Syota Sannomiya	東京消防庁 TOKYO FIRE DEPARTMENT	救急救助 RESCUE
岡田 幸宏 Mr. Yukihiko Okada	神戸市消防局 KOBE MUNICIPAL FIRE DEPARTMENT	救急救助 RESCUE
八代谷 徹 Mr. Toru Yashirodani	神戸市消防局 KOBE MUNICIPAL FIRE DEPARTMENT	救急救助 RESCUE
岡田 敏幸 Mr. Toshiyuki Okada	神戸市消防局 KOBE MUNICIPAL FIRE DEPARTMENT	救急救助 RESCUE
村上 正人 Mr. Masato Murakami	神戸市消防局 KOBE MUNICIPAL FIRE DEPARTMENT	救急救助 RESCUE
下村 毅 Mr. Takeshi Shimonura	尼崎市消防局 AMAGASAKI MUNICIPAL FIRE DEPARTMENT	救急救助 RESCUE
岡 英和 Mr. Hidekazu Oka	尼崎市消防局 AMAGASAKI MUNICIPAL FIRE DEPARTMENT	救急救助 RESCUE
武田 治 Mr. Osamu Takeda	第九管区海上保安本部新潟海上保安部 NIIGATA COAST GUARD OFFICE, 9th REGIONAL COAST GUARD HEADQUARTERS	救急救助 RESCUE
長崎 克明 Mr. Katuaki Nagasaki	第九管区海上保安本部新潟海上保安部 NIIGATA COAST GUARD OFFICE, 9th REGIONAL COAST GUARD HEADQUARTERS	救急救助 RESCUE
松永 隆二 Mr. Ryuji Matsunaga	第三管区海上保安本部横浜海上保安部 YOKOHAMA COAST GUARD OFFICE, 3rd REGIONAL COAST GUARD HEADQUARTERS	救急救助 RESCUE

氏名 (NAME)	所属先・役職 (OCCUPATION)	指導科目 (ASSIGNMENT)
小山 武士 Mr. Takeshi Koyama	第三管区海上保安本部横浜海上保安部 YOKOHAMA COAST GUARD OFFICE, 3rd REGIONAL COAST GUARD HEADQUARTERS	救急救助 RESCUE
山形 茂生 Mr. Shigeo Yamagata	国際協力事業団地域部準備室 REGIONAL DEPARTMENT, JICA	業務調整 COORDINATION
甲口 信明 Mr. Nobuaki Koguchi	国際協力事業団国際協力総合研修所 INSTITUTE FOR INTERNATIONAL COOPERATION, JICA	業務調整 COORDINATION
定本 ゆとり Ms. Yutori Sadamoto	国際協力事業団東京国際研修センター TOKYO INTERNATIONAL TRAINING CENTER, JICA	業務調整 COORDINATION
小野 修司 Mr. Shyuji Ono	国際協力事業団英国事務所 JICA UK OFFICE	業務調整 COORDINATION
坂田 章吉 Mr. Syokichi Sakata	国際協力事業団エジプト事務所 JICA EGYPT OFFICE	業務調整 COORDINATION
正木 寿一 Mr. Toshikazu Masaki	国際協力事業団国際緊急援助隊事務局 SECRETARIAT OF JAPAN DISASTER RELIEF TEAM, JICA	業務調整 COORDINATION

## 5. 団長所感

本チームの現地活動を終了するに際し、とりあえず次のとおりご報告する。

1. 今回のトルコ地震は、マグニチュード7.4、被災者は死者1万2千40人、負傷者3万4千人（8月22日現在で今後さらに増大する見込み）、という地震災害史上、有数の大規模なものとなった。被災地も震源に近い、イズミット市近辺に止まらず、広い範囲に及んだ。我が方が、救助チーム派遣を決定した時点では、死者数名、負傷者数百名と伝えられ、その後、被害が拡大することは予想されたが、結果的にはこの予想をはるかに上回るものとなった。
2. 我が方は17日昼前、災害発生の第一報をキャッチした後、直ちに、在トルコ大使館を通じ、積極的に緊急援助の申し入れを行った。同日午後、先方政府の要請意向を確認するや、救助チームの派遣の方針を決め、消防庁、海上保安庁の積極的な協力の下、フライト確保が可能ただけの団長を含む、20名のメンバーを先発隊として同日夜（22時）本邦を出発させた（後発隊17名は翌日午前中出発）。先発隊は、22時間の移動時間を経ながらも、18日午後2時過ぎにイスタンブルに到着し、直ちに日本チームの活動場所としてトルコ当局より要請されたヤロヴァ市へフェリーで移動し、現地の災害対策本部と協議の上、その後救助活動に入った（現地時間で夜8時）。これは災害発生後41時間であり、後日チーム撤収時に、団長等がヤロヴァ県知事及び、軍の災害対策最高司令官ベルバンオウル将軍を表敬した際、両者より日本チームの素早い現地入りを高く評価する旨の言葉が有ったが、本年1月コンロピア地震災害に派遣した救助チームの記録を更に短縮するものとなった。
3. ヤロヴァ県は、今次災害での死傷者数は全国で3番目であるが、倒壊現場は広範囲かつ多数にわたり、特に当初の2日間程は、他のいずれの外国チームも手をつけていない現場が多かった。このため、本チームは、生存者の発見救出を優先する観点から、サーチ（検索）活動に重点を置き、ある現場でサーチの結果、遺体を発見しても、その収容に多大な時間を要する場合には、あえて収容作業に入ることなく、生存者の可能性が有る別の現場へ向かうとの方針で望んだ。関係住民もこの点についてよく理解し、協力的であった。日を追うに従い、日本チームが他のチームにはない優れたチーム機器と手法を有しているとの評価が広まっていった模様で、既に他のチームが手がけた現場においても、日本チームに再度サーチを要請してくるケースも相当数に上った。

今次救助活動において19日、生存者1名（74歳、女性）を救出したことは、特筆すべき快挙であった。いかに優れた救助能力をもっていても、生存者救出の機会にめぐり合うことは滅多になく“幸運”の要素が大きいといわれる（一説には、10年間やって1人の生命が

救えれば救助活動は続ける価値が有るといわれる)。この場合も、作業中の日本チームの一隊が地元住民の要請により、近くの場所へ赴き、検索した結果、比較的短時間で発見し、救出に至ったものであるが、速い段階で災害地に入り種々の活動を続けてきたことがこのような巡り合わせとなった最大の要素であるというのが、多数の隊員の一致した意見である。いずれにしても、我が国の国際緊急援助隊救助チーム発足以来、7回目のチーム派遣で悲願を達成することが出来た。

今回の派遣期間中の活動結果は次の通り。

参加した活動現場、21ヶ所、発見者数12名、救出者数6名（うち生存者1名）。

4. 一般的に、生き埋めとなった被害者の生存の可能性は72時間を過ぎると極めて乏しいといわれ、従って救助活動の期間はこれが一応の目安となる。今回も、20日頃から被害地域全体としては、大型重機が出動し、倒壊建物の取り壊し、瓦礫の整理等が進み、復旧段階の様相が強まり、また軍等が投入され被災国側の活動能力も増強され、日本チームの出動が求められる件数は著しく減少してきていた。一方、今回の災害では、72時間を過ぎた後もわずかではあるが、生存者が救出されるケースが続き、また、軍兵士やNGOの多い外国チームも撤収の動きを見せていなかったため、日本チームとして、撤収時期をいつにするかの判断が難しいと感じ始めていた。しかし、21日夜、ペルパンオウル将軍が外国チームを招集し、これまでの活動への謝意と歓送の意を表明し、続いて各国チームの調整役を自発的に行っていたオーストリア軍士官より今夜が救助活動の最後となるので協力してほしいとの意向が表明されたことにより、各国チームは一斉に撤収を決めたため、当チームも同夜より22日朝まで徹夜でサーチ活動に参加した上、同日撤収することとした。
5. 生存者救出を第一義的目的とする救助チームにとっては、迅速な被災地入りの基本であるが、早く被災地入りすればする程、被災後の混乱度が高く、環境条件が厳しい。限られた経験からいえば、救助活動にとって、被災地入りした最初の1日から1.5日間が決定的に重要で、またロジ面での支援が考慮されなければならない時ではないかと思われる。即ち、電気、水、食料、通信、移動手段等が必要でありながら、逆に欠如している時でもある。従って、少なくともこの期間は、できるだけ自己完結型の行動ができるよう態勢を整える必要がある。

※総括官からの所感は消防庁の都合により割愛した。

## 6. 活動内容

### (1) 活動期間

平成11年8月18日 20時00分～8月22日 8時00分（トルコ時間）

平成11年8月19日 2時00分～8月22日 14時00分（日本時間）

84時間（3日14時間）

### (2) 活動区域

トルコ共和国ヤロヴァ県ヤロヴァ市及びその周辺

4地域 21ヶ所（ヤロヴァ 15ヶ所、カラマンシティー 3ヶ所、チフトリックキョイ 3ヶ所、ジャラケント 1ヶ所）

### (3) 要救助者の発見・救出状況

12名発見・6名救出（生存者1名を含む）

ヤロヴァ 5名発見・3名救出（生存者1名を含む）

カラマンシティー 5名発見・3名救出

チフトリックキョイ 2名発見

### (4) 活動体制

#### ア 人員等（外部支援者を含む）

国際緊急援助隊 39名、大使館関係者 3名、調教師 2名・災害救助犬 2匹、通訳 7名（日本人ボランティア 1名を含む）、運転手 6名他

#### イ 主な救助資機材

シリウス、ファイバースコープ、携帯型ファイバースコープ、レスキューツール、削岩機、ストライカー、エンジンカッター、簡易救助器具セット、投光器等

#### ウ 車両

6台（中型バス 1台、小型バス 2台、トラック 1台、乗用車 1台）

### (5) 特記事項

日本の救助チームは、現地時間8月19日12時38分、ヤロヴァ市パフチェリエヴレル通りにあるザフェルアパート（耐火4/0共同住宅）の建物崩壊現場で、地震発生（8月17日3時01分）から57時間37分後に生存者の女性1名（メラハット・ウスフルト74歳）を救助した。

## (6) 活動概要

災害No.	日時	場所	災害概要	救助人員等	使用資機材	備考
1	8月18日 21時50分	カラマン シティー	耐火造4/0共同住宅の1階部分が挫屈。 挫屈した建物で建物の基礎と外壁の間に女性1名が挟まれていたもの。	女性1名 (社会死状態) 他に発見1名	ストライカー 削岩機 シリウス 携帯型ファイバースコープ 簡易救助器具	深夜の救助活動実施
2	8月18日 21時50分	カラマン シティー	耐火造3/0店舗併用住宅の建物が座屈して1階ディスコ内に要救助者が数名いたもの。	男性1名、女性1名、計2名 (社会死状態) 他に発見1名	ストライカー 削岩機 シリウス携帯型ファイバースコープ 簡易救助器具 エンジンカッター	深夜の救助活動実施
3	8月19日 1時15分	カラマン シティー	耐火造5/0の建物が全倒壊し1、2階部分と思われる所から音がするとの情報で出場。	なし	携帯型ファイバースコープ 音響探知器	人命検索するも生存者の反応なし
4	8月19日 6時25分	カジオスマン・パ ン・バ ン・シャマハ 地区	耐火造5/0共同住宅が倒壊し1、2階部分に要救助者が数名いるとの情報で出場。	女性1名 (社会死状態)	削岩機 ストライカー レスキュー ツール	障害物の除去に長時間を要した
5	8月19日 8時20分	ヤロヴァ 地区	耐火造5/0の建物が全倒壊し、関係者からの情報で3階部分に要救助者がいるとの情報で出場。	なし	携帯型ファイバースコープ ストライカー	建物内部に空間がなく検索活動が困難
6	8月19日 9時10分	ヤロヴァ 地区	耐火造4/0共同住宅が半倒壊し、関係者からの情報で要救助者が2名いるとの情報で出場。	なし	携帯型ファイバースコープ	スロベニア、オーストリアの救助犬と合同で検索
7	8月19日 10時55分	ヤロヴァ 地区	耐火造4/0共同住宅が全壊したもので、居住者から建物内に子供がいるとの情報で出場。	なし	携帯型ファイバースコープ	腐敗臭がひどく検索するも生存者なし
8	8月19日 11時47分	ヤロヴァ 地区	耐火造4/0共同住宅が全壊したもので、3階部分に女性1人が瓦礫の下敷きになっていたもの。	女性1名 (生存者)	油圧式救助器具 簡易救助器具 三角巾等救急資機材	救助隊、地元医師等による連携活動
9	8月19日 13時39分	ヤロヴァ 地区	耐火造5/0共同住宅が全壊したもので、関係者から建物内部より成人女性と子供の声がするとの情報で出場。	なし	携帯型ファイバースコープ ストライカー	ルーマニア隊が救助犬で検索活動中
10	8月19日 14時02分	ヤロヴァ 地区	耐火造5/0共同住宅が全倒壊していた。地元ボランティアの情報で3階部分に要救助者がいるとの情報で出場。	なし	携帯型ファイバースコープ パール	重機活用による発掘作業実施中
11	8月19日 14時30分	ヤロヴァ 地区	耐火造4/0共同住宅が全倒壊し、2階部分に女性1名が閉じ込められているとの情報で出場。	発見1名	携帯型ファイバースコープ 安全帯 ロープ	女性1名を発見したが救出困難と判断

災害No.	日時	場所	災害概要	救助人員等	使用資機材	備考
12	8月20日 9時17分	チフト リック キョイ地 区	耐火造5/0共同住宅が全倒壊していた。他国の救助隊が検索活動をしたが再検索を要請された。	発見1名	携帯型ファイ バースコープ シリウス	日本救助犬 チーム（ボ ランティ ア）、JDR 医療チーム と連携活動
13	8月20日 10時10分	ヤロヴァ 地区	耐火造4/0共同住宅が全倒壊していた。他国の救助隊が検索活動をしたが再検索を要請された。	女性1名 (社会死状態)	ストライカー 毛布	生存者救出 の状況調査 で要請され た
14	8月20日 11時35分	チフト リック キョイ地 区	耐火造5/0共同住宅が全倒壊していた。他国の救助隊が検索活動をしたが再検索を要請された。	発見1名	携帯型ファイ バースコープ 電磁波探査装 置	1名を発見 したが救出 困難と判断
15	8月20日 13時15分	ジャラケ ント地区 第4区	耐火造5/0共同住宅が全倒壊していた。他国の救助隊が検索活動をしたが再検索を要請された。 1階に子供がいるとの情報で出場。	なし	携帯型ファイ バースコープ シリウス 音響探知器	日本救助犬 チーム（ボ ランティ ア）と連携 活動
16	8月20日 16時05分	ヤロヴァ 地区	耐火造の建物が全倒壊していた。前日に子供が生存状態で救出されており、他にも子供が中にあるとの情報で出場。	なし	携帯型ファイ バースコープ シリウス 音響探知器 エンジンカッ ター 鉄線鉄 グラインダー 等	軍の救助隊 と連携活動
17	8月20日 18時00分	ヤロヴァ 地区	耐火造4/0の建物が空間が無いほど全倒壊しており、内部に要救助者が閉じ込められているとの情報で出場。	なし	携帯型ファイ バースコープ ストライカー	検索結果、 生体反応な し
18	8月20日 19時00分	ヤロヴァ 地区	耐火造の建物が全倒壊し階層も不明の状況であり、国からの要請で瓦礫の空間を利用しての人命検索活動を依頼され出場。	発見1名	音響探知器	要救助者を 発見したが 社会死状態
19	8月21日 17時15分	ヤロヴァ 地区	耐火造5/0の建物が壁、柱が押しつぶされた状態で崩壊しており、関係者から子供2名が閉じ込められているとの情報で出場。	なし	携帯型ファイ バースコープ シリウス 音響探知器	検索結果、 生体反応な し
20	8月21日 23時27分	ヤロヴァ 地区	耐火造4/0共同住宅が全倒壊しており、内部から声が聞こえると情報で出場。	なし	携帯型ファイ バースコープ シリウス 投光器	検索結果、 生体反応な し
21	8月22日 4時34分	ヤロヴァ 地区	耐火造の建物が階層不明の状態で完全に崩壊しており、ボランティアが救助活動中、血の付いた毛布を発見し出場要請があったもの。	なし	携帯型ファイ バースコープ シリウス 投光器 ロープ 安全帯	検索結果、 生体反応な し

※5/0共同住宅：地上5階地下0階の共同住宅

社会死状態：社会・一般的に明らかに死亡していると認められる状態

## (7) 活動経過

「第一次派遣隊、派遣決定から現地到着まで」

日時 (日本時間)	日時 (現地時間)	実施内容等
8/17 (火) 9:01	8/17 (火) 3:01	トルコ西部イズミット市付近を震源とするM7.4の地震が発生
20:55	14:55	国際緊急援助隊の結団式 1. 挨拶 (外務省白川団長・自治省消防庁北出総括・東京消防庁高橋隊長・海上保安庁古谷隊長) 2. 各隊員の自己紹介 3. 事務連絡
21:55	15:55	成田空港出発 (エールフランス 273 便)
8/18 (水) 11:25	8/18 (水) 5:25	パリ (シャルル・ド・ゴール空港) 到着
12:35	6:35	第1回対策会議実施 (空港待合室)
15:15	9:15	ミーティング実施 (空港待合室) 1. 対策会議の結果の示達
17:25	11:25	パリ (シャルル・ド・ゴール空港) (エールフランス 2390 便) 出発
20:25	14:25	イスタンブル空港到着
21:35	15:35	白川団長トルコ総領事と空港にて面会
21:37	15:37	イスタンブル空港出発 (バス) し、イエニカブ港に向かう。
21:45	15:45	バス移動中に北出総括から示達 1. 日本チームの活動区域はヤロヴァ県に決定 2. ヤロヴァは人口 10 万人都市で半壊の建物が多く、18 日 12:00 の時点で死者 292 名あり、国内 4 番目に多いとのこと。トルコ国内で全体の死者は 2,490 名とのこと。
22:03	16:03	バス移動中に避難民らしき人を確認
22:40	16:40	イエニカブ港到着
8/19 (水) 0:00	8/19 (水) 18:00	イエニカブ港出発 (フェリーにて移動)
0:30	18:30	ミーティング実施 (フェリー内) 1. 現地の状況 (12:00 現在) の示達
1:15	19:15	ミーティング実施 (フェリー及びバス内) 1. 現地を目視し、活動上の留意事項の指示
1:20	19:20	ヤロヴァ港到着 (住民に拍手で迎えられる。)
1:28	19:28	ヤロヴァ港出発 (バスにて移動) 1. 信号は止まっている。 2. 避難民を公園等で多数確認 3. 街中に入ると倒壊建物を次々と確認 4. 住民は淡々としており、暴動等はなく治安は安定している。 5. 交通量は多いが、渋滞には至っていない。
1:45	19:45	ヤロヴァ現地対策本部に到着

「第二次派遣隊、派遣決定から現地到着まで」

日時 (日本時間)	日時 (現地時間)	実施内容等
8/17 (火) 9:01	8/17 (火) 3:01	トルコ西部イズミット市付近を震源とするM7.4の地震が発生
10:10	4:10	国際緊急援助隊の結団式 1. 挨拶 (自治省消防庁鷺坂救急救助課長・海上保安庁中島氏) 2. 各隊員の自己紹介 3. 事務連絡
12:00	6:00	成田空港出発 (エールフランス 275 便)
8/19 (木) 0:10	8/18 (水) 17:10	パリ (シャルル・ド・ゴール空港) 到着
2:00	20:00	パリ (シャルル・ド・ゴール空港) 出発
5:10	23:10	イスタンブル空港到着
6:40	8/19 (木) 0:40	イスタンブル空港出発 (小型バス2台で移動)
7:05	1:05	イエニカブ港到着
8:00	2:00	ミーティング実施 (バス内) 1. 現地の状況確認 2. 日本チームの活動状況の確認 3. ヤロヴァへの移動経路の検討
9:25	3:25	イエニカブ港出発 (フェリーにて移動)
10:42	4:42	ヤロヴァ港到着
11:00	5:00	ヤロヴァ現地対策本部到着
11:05	5:05	白川団長に到着報告
11:20	5:20	指揮本部に通信設備、テント設営
12:10	6:10	指揮本部設営完了

「1日目の活動開始から活動終了まで」

日時 (日本時間)	日時 (現地時間)	実施内容等
8/19 (水) 2:00	8/18 (火) 20:00	ヤロヴァ現地対策本部からカラマンシティーの検索救助の要請を受け日本チーム活動開始 (資機材点検等出場準備)
2:30	20:30	カラマンシティーに出場 (マイクロ1台、トラック1台、乗用車1台)
3:15	21:15	カラマンシティーに現着 1. 隊長・副隊長による現場の情報収集と状況確認を実施 2. 隊員による資機材の準備を実施
3:50	21:50	No.1 No.2 現場、活動開始
3:55	21:55	No.2 現場、要救助者の頭部発見
3:56	21:56	No.1 現場、要救助者の足部発見
4:02	22:02	No.2 現場、さらに要救助者2名発見
4:15	22:15	No.1 現場、さらに要救助者1名発見
6:10	8/19 (水) 0:10	No.2 現場、要救助者女性1名救出完了 (社会死)
6:11	0:11	No.2 現場、さらに要救助者男性1名救出完了 (社会死)、計2名救出完了
6:20	0:20	No.1 現場、要救助者女性1名救出完了 (社会死)

6 : 45	0 : 45	再検索完了 (資機材の整備・野営準備実施)
7 : 15	1 : 15	付近住民から倒壊建物 (No.3 現場) から音が聞こえるとの情報
7 : 20	1 : 20	No.3 現場へ転線出場 (第1班)、第2、3班作業継続
9 : 10	3 : 10	耐火造 5/0 検索するも生存者なし
9 : 15	3 : 15	野営地に到着
9 : 15	3 : 15	白川団長、北出総括、川越隊長は現地対策本部に戻り、今後の対応について協議
9 : 15	3 : 15	ミーティング実施 1. 今後の予定 2. 本日の活動状況の確認
10 : 00	4 : 00	活動終了 (仮眠へ)
12 : 00	6 : 00	白川団長、北出総括ドナー会議出席
12 : 00	6 : 00	起床 (点呼、資機材・荷物の点検及び積み込み・現地住民への説明 (活動状況の説明及び引き揚げの理由))
12 : 30	6 : 30	指示・黙祷 (1分間)
12 : 40	6 : 40	現地対策本部へ出発

「2日目の活動開始から宿舎引き揚げまで」 天気 晴れ 最高気温 約40度

日時 (日本時間)	日時 (現地時間)	実施内容等
8/19 (木) 12 : 25	8/19 (木) 6 : 25	第二次派遣隊第1班 No.4 現場に出場
12 : 35	6 : 35	第二次派遣隊第2班 No.4 現場に応援出場
13 : 00	7 : 00	No.4 現場、要救助者女性1名発見
14 : 10	8 : 10	第一次派遣隊、現地対策本部に到着。第二次派遣隊の一部 (3名) と合流。 第4回対策会議実施 1. 今後の活動方針について協議
14 : 20	8 : 20	第一次派遣隊、第2班 No.5 現場に出場
14 : 25	8 : 25	第一次派遣隊、No.4 現場に資機材応援出場
14 : 37	8 : 37	No.5 現場、要救助者なし
14 : 57	8 : 57	第一次派遣隊、第2班 No.5 現場から帰本部
15 : 10	9 : 10	第一次派遣隊、第3班 No.6 現場に出場
16 : 10	10 : 16	No.6 現場、検索完了腐敗臭あるものの要救助者発見できず
16 : 40	10 : 40	第一次派遣隊、第3班 No.6 現場から帰本部
16 : 50	10 : 55	第一次派遣隊、第2班 No.7 現場に出場
17 : 04	11 : 04	第一次派遣隊、第3班 No.4 現場に交替要員出場
17 : 10	11 : 10	第一次派遣隊、第3班 No.4 現場に交替要員現場到着
17 : 40	11 : 40	No.4 現場、女性1名救出完了 (社会死)
17 : 45	11 : 45	第二次派遣隊、No.4 現場から現場引き揚げ
17 : 45	11 : 45	No.7 現場、検索完了腐敗臭あるものの要救助者発見できず
17 : 46	11 : 46	第一次派遣隊、第3班 No.8 現場に転戦出場
17 : 49	11 : 49	No.8 現場、要救助者女性1名発見 (意識レベル2)
17 : 53	11 : 53	第二次派遣隊、No.4 現場から帰本部
18 : 02	12 : 02	第一次派遣隊、第2班 No.7 現場から帰本部
18 : 05	12 : 05	第一次派遣隊、第1班 No.8 現場に応援出場
18 : 38	12 : 38	No.8 現場、要救助者女性1名 (生存) 救出完了
18 : 40	12 : 40	No.8 現場、要救助者女性1名トルコ救急隊に引き継ぎ

19:30	13:30	第5回対策会議（これより派遣隊合流） 1. 活動方針の徹底 2. 活動内容の整理
19:39	13:39	No.9 現場、第2班A出場
20:02	14:02	No10 現場、第2班B出場
20:25	14:25	No10 現場、検索完了。要救助者発見に至らず。
20:30	14:30	第2班B帰本部
20:30	14:30	No11 現場、第3班A出場
20:40	14:45	No11 現場、要救助者（女性1名発見）
20:50	14:50	No.9 現場、検索完了（No.7と同一現場）。要救助者発見に至らず。
20:55	14:55	第2班A帰本部
21:11	15:11	No11 現場、要救助者（女性1名社会死状態）救出不能
21:20	15:28	第3班A帰本部
22:00	16:00	余震発生（体感で震度2程度）
8/20（金） 0:18	8/19（木） 18:18	余震発生（体感で震度3程度）
0:44	18:44	宿舎へ出発
2:00	20:00	宿舎へ到着 第6回対策会議 1. 活動内容の整理 2. 今後の活動方針の確認
3:00	21:00	夕食
5:30	23:30	就寝

「3日目の宿舎出発から宿舎引き揚げまで」 天気 晴れ 最高気温 約34度

日時 (日本時間)	日時 (現地時間)	実施内容等
8/20（金） 9:50	8/20（金） 3:50	余震発生（体感で震度3程度）
11:00	5:00	起床
11:30	5:30	朝食
12:30	6:30	宿舎出発
12:46	6:46	バス給油（ヤロヴァでは調達不能とのこと。）
14:00	8:00	現地対策本部に到着
14:20	8:20	隊長指示
15:00	9:00	第7回対策会議 1. 活動現場（チフトリックキョイ地区）の決定 2. 医療チームとの連携 3. 災害救助犬との連携 4. 本隊と指揮本部残留隊に部隊を一次編成替
15:20	9:20	チフトリックキョイ地区に本隊出発
16:10	10:10	No13 現場にヤロヴァ残留隊出場
16:13	10:13	チフトリックキョイ地区に本隊現着
16:25	10:25	No13 現場、要救助者（女性1名）発見
16:30	10:30	No13 現場、要救助者（女性1名）救出完了（社会死）。調査に移行。
16:30	10:30	チフトリックキョイ地区 No12 現場、活動開始
17:35	11:35	No14 現場、本隊検索開始

17:45	11:45	No12 現場、携帯型ファイバースコープ、災害救助犬、医療チームと合同で検索し、要救助者1名発見するも瓦礫の障害により救出に至らず。
17:55	11:55	No13 現場からヤロヴァ残留隊引き揚げ
18:00	12:00	ヤロヴァ残留隊、帰本部
18:00	12:00	No12 現場、活動終了
18:15	12:15	No14 現場、要救助者1名発見（社会死）するも、瓦礫の障害により救出に至らず。
18:20	12:20	No14 現場、活動終了
19:15	13:15	ジャラントケント地区に移動
19:26	13:26	ジャラントケント地区に到着 No15 現場検索開始
20:30	14:30	No15 現場、各資機材及び災害救助犬により検索するも要救助者の発見に至らず。
21:00	15:00	NGOからヤロヴァ市内の地図を入手
21:15	15:15	本隊、現地対策本部へ引き揚げ
22:02	16:02	本隊、帰本部
22:05	16:05	No16 現場に第3班出場
22:20	16:20	No16 現場に第3班現着
22:30	16:30	No16 現場に第2班応援出場
22:45	16:45	No16 現場に第2班現着
23:25	17:25	No16 現場に第1班応援出場、第3班引き揚げ
23:35	17:35	No16 現場に第1班現着、第3班帰本部
23:50	17:50	No16 現場、検索完了。要救助者発見に至らず。
23:55	17:55	No16 現場、トルコ軍に状況説明。北側部分の確認を要請され再度活動開始
8/21 (土) 0:00	8/20 (金) 18:00	No17 現場に第3班出場
0:10	18:10	No16 現場、活動終了。発見に至らず。
0:15	18:15	No17 現場、活動終了。発見に至らず。
0:25	18:25	第3班 No17 現場から帰本部
0:35	18:35	第1班、第2班 No16 現場から帰本部
1:00	19:00	No18 現場に第2班出場
1:33	19:33	No18 現場、要救助者1名発見するも、瓦礫による障害のため救出に至らず。
1:51	19:51	第2班 No18 現場から帰本部
2:00	20:00	宿舎へ出発
2:30	20:30	白川団長、北出総括が現地対策本部と打合せを試みたが、対応不能であった。
3:30	21:30	白川団長、北出総括宿舎へ出発
3:45	21:45	宿舎到着 第8回対策会議 1. 活動内容の整理 2. 今後の活動方針の確認
4:00	22:00	夕食
4:50	22:50	白川団長、北出総括宿舎到着
5:30	23:30	就寝

「4日目の宿舍出発からイスタンブル移動まで」 天気 晴れ 最高気温 約36.9度

日時 (日本時間)	日時 (現地時間)	実施内容等
8/21 (土) 11:00	8/21 (土) 5:00	起床
11:30	5:30	朝食
12:30	6:30	宿舍出発
13:54	7:54	現地対策本部に到着 第9回対策会議実施 1. 活動内容の協議
14:00	8:00	隊長指示
16:00	10:00	被害状況調査(第1班、第2班A) 出向
17:00	11:00	第1班、第2班帰本部
17:00	11:00	被害状況調査(第2班B、第3班) 出向
17:30	11:30	トルコ軍に日本チームの救助資機材の説明を行う。
18:55	12:55	第2班B、第3班帰本部
19:45	13:45	現地対策本部からチフトリックキョイ地区に出向し、地区の対策本部の出場要請の確認を要請され、調査班出向
20:05	14:05	チフトリックキョイ地区に調査班現着。地区のメティンダー区長からアイデン4地区の確認を要請され、現場に向かう。
20:15	14:15	アイデン4地区に現着。当地区の担当者のボランティア(地区の市役所職員)から、この地区はロシア・イスラエルチームが検索済みであり再検索の必要はないとのことであった。また、アイデン地区全体も7ヶ国の救助チームが検索済みで、再検索の必要はないとのことであり、引き揚げる。
20:30	14:30	第10回対策会議実施 1. 第1次派遣隊は宿舍へ戻り待機 2. 第2次派遣隊は現地で野営し情報収集活動
20:55	14:55	調査隊帰本部
21:10	15:10	第1次派遣隊宿舍へ出発
22:00	16:00	各国救助チームの責任者一同と現地対策本部責任者トルコ軍ペルバンオウル将軍と会談した。
22:30	16:30	第1次派遣隊宿舍到着 第11回対策会議 1. 活動内容の整理 2. 今後の活動方針の確認
23:15	17:15	No19現場へ第2次派遣隊第1班出場
23:40	17:40	No19現場、要救助者の発見に至らず。
8/22 (日) 0:00	18:00	第2次派遣隊第1班帰本部
0:30	18:30	第12回対策会議 1. 現地対策本部関係者と撤収時期の確認を行った。
1:30	19:30	第1次派遣隊夕食
4:00	22:00	活動続行を決定し、白川団長、北出総括はヤロヴァ県知事に報告した。
4:00	22:00	第1次派遣隊就寝(待機状態)
5:27	23:27	No20現場へ第2次派遣隊第2班出場
6:36	8/22 (日) 0:36	No20現場、要救助者の発見に至らず。
7:00	1:00	第2次派遣隊第1班帰本部
10:34	4:34	No21現場へ第2次派遣隊第3班出場

11:30	5:30	No21 現場、要救助者の発見に至らず。
11:37	5:37	第2次派遣隊第3班
12:00	6:00	第1次派遣隊起床
12:00	6:00	指揮本部撤収作業開始
12:45	6:45	指揮本部撤収作業終了
13:00	7:00	第1次派遣隊朝食 朝食終了後身辺整理
13:05	7:05	第2次派遣隊宿舎へ出発
14:00	8:00	白川団長、北出総括、高橋隊長、三宮隊員ヤロヴァ現地対策本部の責任者トルコ軍ペルパンオウル料軍と接見し、日本チームの活動内容の報告と活動終了を報告し了解と謝意の言葉を得る。
14:10	8:10	白川団長一行宿舎へ出発
14:20	8:20	第2次派遣隊宿舎へ到着
14:30	8:30	第2次派遣隊朝食。その後身辺整理
15:30	9:30	白川団長一行宿舎到着
15:45	9:45	白川団長一行朝食。その後身辺整理
19:10	13:10	宿舎発 (バスにて移動)
21:15	15:15	ヤロヴァ港発 (フェリーにて移動)
22:35	16:35	イエニカプ港到着 (バスにて移動)
23:15	17:15	イスタンブルの宿舎に到着 (スイスホテル)
8/23 (月)	8/22 (日)	宿舎内において検討会実施
0:35	18:35	
4:00	22:00	就寝

「5日目の宿舎出発から帰庁まで」 天気 晴れ 最高気温 約30度

日時 (日本時間)	日時 (現地時間)	実施内容等
8/23 (月)	8/23 (月)	起床
12:00	6:00	
13:00	7:00	白川団長に小渕首相から激励と謝意の電話が入る。
13:00	7:00	朝食
15:30	9:30	白川団長指示
15:45	9:45	白川団長、北出総括、高橋隊長、各機関の代表者トルコ領事館に活動報告のため訪問に出発
16:00	10:00	団長一行トルコ領事館に到着
16:10	10:10	団長一行トルコ総領事と懇談 NHKの取材
17:00	11:00	団長一行トルコ領事館を出発 イスタンブル視察に移行
17:15	11:15	隊長宿舎出発 イスタンブル視察に出向
18:00	12:00	団長一行と隊員合流
18:37	12:37	イスタンブル空港到着
21:25	15:25	イスタンブル空港出発 (KLM1614便)
8/24 (火)	18:55	アムステルダム空港到着
0:55		
2:00	20:00	アムステルダム空港発 (日本航空412便)
13:31	7:31	成田空港到着
14:15	8:15	国際緊急援助隊解団式

No. 1 *	8月18日 21時50分	場所	カラマンシティ
災害状況	耐火造4/0共同住宅の1階部分が座屈し、梁により押しつぶされた性別不明の足首を発見し、更に検索すると建物の基礎と外壁に腰部を挟まれ、うつ伏せ状態で女性が倒れたていた。		
時間経過	21:50 サーチ(検索)活動開始 21:56 足首発見 22:05 胴体の上に梁があり、救出困難(建物の倒壊危険有り) 22:10 資機材到着 22:15 更に女性(推定60)1名発見、呼びかけ反応無し 削岩機及びストライカー等を活用し救出活動実施 0:20 女性1名救出完了(社会死) 0:45 再検索終了、野営準備		
活動概要	1 最初に発見した要救助者(社会死)の救出には主要構造部の破壊を必要とするため倒壊危険があると判断、関係者に説明して、関係者の理解を得て、救出活動を打ち切った。 2 更に、腰部を基礎部分と外壁に挟まれている女性を発見、削岩機、パール、のこぎり、ストライカー等を活用し、腰部周辺の障害物を破壊し隙間をつくり救出した。		
使用資機材	削岩機 1 シリウス ストライカー 1	ナイフ 1 パール 1 のこぎり 1	携帯型ファイバースコープ 1
その他	1 活動環境は、建物2~3階部分の主要構造部にクラックが入り余震時の二次災害の発生危険が予想された活動困難な状況であった。 2 深夜の活動で、投光機がなく車のライトとヘッドライト等による活動を強いられ、救助活動は困難を極めた。		

\* 6-(6) 活動概要の災害No.に同じ。以降ページ同様。



No. 3	8月19日 1時15分	場所	カラマンシティ
災害状況	野営現場から東に15分離れた倒壊建物現場で中から音が聞こえるとの情報により、隊員4名と通訳1名で要請者の車両で出場した。現場は、耐火造5階の建物が崩壊し、1、2階の部分から音がするとの情報であった。		
時間経過	<p>1:15 付近住民から倒壊建物の中から音が聞こえたとの情報</p> <p>1:20 1班4名と通訳1名が要請者の車両で出場</p> <p>2:20 共同通信者の記者から出場先は生存者の確率が低いとの情報提供あり</p> <p>3:10 1、2階部分をサーチ（検索）するも生存者なし</p> <p>3:15 野営地に到着</p>		
活動概要	<p>1 関係者から音の聞こえた場所に案内され、携帯型ファイバースコープ、音響探知器を活用しサーチ（検索）活動を実施するも要救助者の発見には至らなかった。</p> <p>2 検索活動には、行方不明者の家族に、携帯型ファイバースコープの拡声装置を使って呼び掛けや、音響探知器による検索を実施させる等して日本チームの活動と思いやりが十分理解され、要救助者を発見するに至らなかったにもかかわらず、家族等から感謝され現場を引き上げた。</p> <p>3 現場で要救助者の発見には至らなかったが、強い腐乱臭が漂う中の検索活動であった。</p>		
使用資機材	<p>携帯型ファイバースコープ 1</p> <p>音響探知器 1</p>		
その他	<p>1 長時間の検索活動を実施した結果、家族に対して説明し現場を引き揚げた。</p> <p>2 現場引き揚げは、警察の車両に乗車し移動した。</p> <p>3 音が聞こえるという情報に通訳を通じ確認すると、発災直後であったり昨日の夕方頃であったり、関係者の話す内容が不明確であった。</p>		

No. 4	8月19日 6時25分	場所	カジオスマン・パシヤマハ地区
災害状況	耐火5/0共同住宅の建物が崩壊し1、2階中心に多数の要救助者がいるとの情報で出場した。		
時間経過	6:25 1班出場 6:35 2班出場 7:00 要救助者(女性1名)発見 7:10 救助活動開始 8:25 資機材応援出場 11:04 交替要員出場(7名) 11:10 交替要員現場到着(7名) 11:40 救出完了 11:45 第2次派遣隊現場引き揚げ(11名)		
活動概要	1 現場建物は崩壊し瓦礫の山の状態であった。 2 進入可能な開口部を選定し障害物を排除しつつ検索活動を実施したところ右腕を挟まれている女性1名を発見、強い腐敗臭がしていた。 3 多数の住民が見守る中での救出活動は、削岩機、ストライカー等で大きな障害物を破壊するも救出に困難を要した。 4 交替要員が到着し、現場交替するとともにレスキューツールで鉄筋を切断する等、右腕の挟まれ部分を拡張し、救出した。 5 二次災害(家屋の倒壊等)の防止に、細心の注意を払っての活動であった。		
使用資機材	削岩機 1 ストライカー 1 レスキューツール 1		
その他	1 進入口の選定と障害物の除去に長時間を要した。 2 二次災害の防止に細心の注意を払った。 3 救出した女性の関係者が現場におり、深く感謝された。		

No. 5	8月19日 8時20分	場所	ヤロヴァ地区
災害状況	<p>耐火造5/0共同住宅が崩壊しており、各階の間隙が殆ど無い状態で既に重機により上層階から除去作業が始まっていた。</p> <p>住民の供述によると3階部分に要救助者がいるとのことであった。</p>		
時間経過	<p>8:20 出場</p> <p>8:22 現場到着</p> <p>8:25 サーチ(検索)活動実施</p> <p>8:37 携帯型ファイバースコープにより検索するも要救助者なし</p> <p>8:57 帰本部</p>		
活動概要	<p>1 重機により瓦礫を取り除いて出来た隙間に携帯型ファイバースコープを活用し、多方面からサーチ(検索)活動を実施したが、要救助者の発見には至らなかった。</p>		
使用資機材	<p>携帯型ファイバースコープ 1</p> <p>ストライカー</p>		
その他	<p>1 住民から具体的な場所の指示を受けるも、次々と場所が変わる状況であり、建物内部は崩壊により空間もなく絶望的な状況であった。</p>		

No. 6	8月19日 9時10分	場所	ヤロヴァ地区
災害状況	耐火造4/0共同住宅が崩壊したもので、建物内に要救助者2名がいるとの情報で、現場には住民が多数おり救助隊の活動を見守っていた。		
時間経過	<p>9:10 生存者2名有りとの情報で5名出場</p> <p>9:15 現場到着、既にスロヴェニア、オーストラリアチームが活動中</p> <p>9:45 日本チームは携帯型ファイバースコープ、スロヴェニア、オーストラリアチームは災害救助犬でサーチ（検索）活動実施するも要救助者は発見できなかった。なお、現場に腐敗臭あり。</p> <p>10:16 付近住民に状況説明しサーチ（検索）活動終了</p> <p>10:40 帰本部</p>		
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 住民の情報に基づき他国チームと活動範囲を分担し、携帯型ファイバースコープ及び目視にてサーチ（検索）活動を実施した。</li> <li>2 現場には腐敗臭が漂っていたが要救助者の発見には至らなかった。</li> <li>3 残存した建物は崩壊危険が極めて高く安全管理に充分留意しながら活動を実施した。</li> </ol>		
使用資機材	携帯型ファイバースコープ 1		
その他	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 スロヴェニア、オーストラリアチームと合同で検索活動を実施した。</li> <li>2 日本チームの懸命な検索活動が高く評価され、活動終了時住民等から感謝の言葉を受けた。</li> </ol>		

No. 7	8月19日 10時55分	場所	ヤロヴァ地区
災害状況	<p>耐火造4/0共同住宅が崩壊したもので、居住者から建物内に子供が取り残されているとの情報を得た。  サーチ（検索）建物には、そえ木を用いて座屈を防いでいる状態で倒壊危険が大であった。</p>		
時間経過	<p>10:55 対策本部からの要請で出場  11:07 現場到着  11:32 携帯型ファイバースコープ、目視によりサーチ（検索）活動実施するも要救助者発見できず  11:45 住民の要請により建物の裏側へ回って再度サーチ（検索）するも要救助者発見できず  11:50 住民に状況説明、現場引き揚げ  12:02 帰本部</p>		
活動概要	<p>1 居住者からの情報に基づく箇所を重点に、携帯型ファイバースコープ、視認及び呼びかけにより、サーチ（検索）するも要救助者の発見には至らなかった。  2 建物付近からは、腐敗臭が漂っていた。</p>		
使用資機材	<p>携帯型ファイバースコープ 1</p>		
その他	<p>1 居住者の要請を考慮し、サーチ（検索）漏れのないよう多方面から確認を実施した。  2 画像と音声による呼びかけを、居住者本人に確認させ十分納得を得た。</p>		

No. 8	8月19日 11時47分	場所	ヤロヴァ地区
災害状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 耐火造4/0共同住宅が崩壊していた。</li> <li>2 すでに重機が入り、建物の解体作業が進んでいる状態であった。</li> <li>3 作業員は呻き声を聴き、解体作業を中断していた。</li> <li>4 警察官の案内で現場確認し、呼びかけを行ったところ返答があった。</li> <li>5 瓦礫内部を確認すると、要救助者はベット上左側臥位で、両肩と両下腿がコンクリートと瓦礫の間に挟まれていた。</li> </ol>		
時間経過	<ol style="list-style-type: none"> <li>11:47 警察官からの要請</li> <li>11:49 現場到着、要救助者（女性1名）発見</li> <li>11:50 救出活動開始</li> <li>12:38 要救助者救出完了</li> <li>12:40 地元救急隊に引き継ぎ</li> <li>12:55 現場引き揚げ</li> </ol>		
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開口部付近の障害物（壁材、コンクリート、家具等）を除去した。</li> <li>2 救急救命士の指示により、通訳を通じ現地医師に酸素投与を要請した。</li> <li>3 要救助者が水分を要求したため、水を含ませた滅菌ガーゼを与えた。</li> <li>4 材木等であて木を設定し、建物の倒壊・二次的災害の防止を図った。</li> <li>5 油圧式救助器具（ラムシリンダー）を設定し、床と天井部分の拡張を行った。</li> <li>6 拡張部分にあて木を設定し、更に油圧式救助器具（ラムシリンダー）の設定替えを行い、内部の障害物除去を行った。</li> <li>7 隊員が瓦礫内部に進入し要救助者の足部を確認すると、瓦礫に埋まっていたため付近の瓦礫を排除し、足部を介添えしながらかかえて救出した。</li> <li>8 救急救命士を通じ、地元救急隊に引き継ぎ一連の活動を終了した。</li> </ol>		
使用資機材	<p>油圧式救助器具、のこぎり、パール  三角巾、滅菌ガーゼ  酸素ポンベ、酸素マスク、ポリネック（現地救急隊のもの）</p>		
その他	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 救急救命士の容態観察の結果、意識レベル2・呼吸24・脈90。</li> <li>2 要救助者の生命力、JDRの技術、救急救命士、地元住民の協力等のすべての力を結集しての救出活動であった。</li> <li>3 要救助者救出時に、付近住民から大きな拍手喝采があがり、日本チームに対し、感謝の声が盛んにかけられた。</li> </ol>		

No. 9	8月19日 13時39分	場所	ヤロヴァ地区
災害状況	川沿いにある耐火造5階建ての共同住宅が崩壊していた現場で、既にルーマニアの救助犬がサーチ（検索）活動を実施していた。付近の住民から、成人女性と子供の声がするとの情報があった。		
時間経過	13:39 出場 13:45 現場到着 13:50 サーチ（検索）開始 14:50 サーチ（検索）終了 14:55 帰本部		
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 先着していた、ルーマニアの救助隊が、救助犬を活用してサーチ（検索）を実施したが反応はなかった。</li> <li>2 現地関係者の情報で声がするという場所を特定し、携帯型ファイバースコープによるサーチ（検索）を5ヶ所実施したが要救助者の確認はできなかった。</li> <li>3 関係者に状況を説明して納得を得た後、現場を引き揚げた。</li> </ol>		
使用資機材	携帯型ファイバースコープ 1 ストライカー 1		
その他	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日本チームの懸命なサーチ（検索）活動が高く評価された。</li> <li>2 現地関係者等から理解と感謝が示された。</li> <li>3 No. 7現場と同一現場であった。</li> </ol>		

No. 10	8月19日 14時02分	場所	ヤロヴァ地区
災害状況	耐火造5階建ての共同住宅が崩壊していた現場で、地元ボランティアが、重機を活用し救出活動を行っていた。付近住民によると、3階部分に要救助者がいるとの情報であった。		
時間経過	14:02 出場 14:10 現場到着 14:11 サーチ（検索）開始 14:25 サーチ（検索）終了 14:00 帰本部		
活動概要	1 救出活動中の重機の停止を依頼し、現場の安全を確認後、崩壊建物の3階部分開口部（縦50cm、横3m）より隊員2名が屋内進入し、携帯型ファイバースコープによる内部のサーチ（検索）を実施したが発見に至らなかった。 2 更に、地元住民の依頼により他2ヶ所を同様に携帯型ファイバースコープを活用し、サーチ（検索）するも要救助者の発見に至らなかった。 3 関係者に状況を説明して納得を得た後、現場を引き揚げた。		
使用資機材	携帯型ファイバースコープ 1 パール 1		
その他	1 現場関係者等に、活動内容を十分説明し、理解と感謝が示された。		

No. 11	8月19日 14時30分	場所	ヤロヴァ地区
災害状況	耐火造4/0共同住宅が崩壊していた現場で、2階部分と思われる開口部（縦40cm、横1.5m）より約1.5mの位置に女性1名が閉じ込められているとの情報であった。		
時間経過	14:30 出場 14:37 現場到着、活動開始 14:45 要救助者（女性1名）発見 15:11 瓦礫を排除し救出を試みるが、救出不能と判断、活動終了 15:15 現場引き揚げ 15:27 帰本部		
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 携帯型ファイバースコープを活用、開口部より内部をサーチ（検索）したところ女性の手の部分を発見した。</li> <li>2 あて木を2ヶ所に設定後、隊員1名が安全帯を装着しロープ確保により内部進入、要救助者の女性の胸より下の部分が瓦礫に埋まっており既に死亡（社会死）しているのを確認した。</li> <li>3 手で瓦礫の除去を試みるが、救出不能と判断した。</li> <li>4 関係者に状況を説明して納得を得た後、現場を引き揚げた。</li> </ol>		
使用資機材	携帯型ファイバースコープ 1 安全帯 1 ロープ（20m） 1		
その他	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 崩壊した建物の二次崩壊危険及び腐敗臭が強い活動環境であった。</li> <li>2 現地関係者等に、活動内容を十分説明し、理解と感謝が示された。</li> </ol>		

No. 12	8月20日 9時17分	場所	チフトリックキョイ地区
災害状況	耐火造5/0共同住宅が崩壊していた現場で、他国の救助隊がサーチ（検索）済みであったが、再度サーチ（検索）を要請されたもの。地元ボランティアが、重機により作業をしていた。		
時間経過	<p>10:30 検索開始</p> <p>10:45 女性1名を発見するも、腐敗臭が強く社会死状態でさらに瓦礫による障害で救出不能であった。</p> <p>11:05 シリウスによる探査活動決定</p> <p>11:30 探査活動開始</p> <p>11:45 携帯型ファイバースコープ使用、救助犬・医療チームと連携して検索活動を行う</p> <p>12:00 活動終了</p>		
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 倒壊建物に隊員を配置し、目視による確認を実施した。</li> <li>2 要救助者1名を発見するも社会死状態で、持ちうる資機材のみでは救出不能であった。</li> <li>3 携帯型ファイバースコープ及び救助犬2匹によるサーチ（検索）を2ヶ所実施した。</li> <li>4 医療チームにヘルメットを渡し、要救助者が救出されたら直ちに医療措置が実施できるよう待機を要請した。</li> <li>5 シリウスによる生体反応探査を1ヶ所実施した。（生体反応なし）</li> </ol>		
使用資機材	<p>携帯型ファイバースコープ 1</p> <p>シリウス 1</p>		
その他	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 救助犬及び医療チームとの連携活動を実施した。</li> <li>2 建物は全壊しており腐敗臭が漂い、極めて活動環境の悪い状況であった。</li> <li>3 草原には、既に救出された死体（ビニールに包まれた）が5～6体あり柩箱の準備が進められていた。</li> </ol>		

No. 13	8月20日 10時10分	場所	ヤロヴァ地区
災害状況	<p>前日に生存者を救助した現場で、既に軍の関係者が重機等の作業により解体作業が進んでいた。到着と同時に、軍関係者から要救助者らしきものを発見したので、確認して欲しい旨の要請を受けた。なお、現場では地元のボランティアが、作業を手伝っていた。</p>		
時間経過	<p>10:10 出場  10:20 現場到着、活動開始  10:25 要救助者発見  11:30 救出完了、調査活動に移行  11:55 現場引き揚げ  12:00 帰本部</p>		
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 軍の関係者から要救助者の確認を要請された。</li> <li>2 倒壊建物を目視による確認を実施した結果、重機で瓦礫を排除した所に要救助者を発見した。</li> <li>3 要救助者の周囲の瓦礫を除去し、毛布の上に救出して、軍関係者ととも搬送した。</li> <li>4 要救助者は、首の骨が折れており社会死状態で軍関係者に引き継いだ。</li> <li>5 要救助者救出後、調査活動に移行した。</li> </ol>		
使用資機材	<p>ストライカー 1  毛布 1</p>		
その他	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 生存者救出の状況調査で出向したもの。</li> <li>2 要救助者は、首が折れている模様であった。</li> <li>3 No. 8と同一現場で調査出向現場であった。</li> </ol>		

No. 14	8月20日 11時35分	場所	チフトリックキョイ地区
災害状況	耐火造5/0共同住宅が崩壊していた現場で、他国の救助隊がサーチ（検索）済みであったが、再度サーチ（検索）を要請されたもの。現場は、地元ボランティアが、重機により作業中で、瓦礫の下から物音がするという情報であった。		
時間経過	11:35 携帯型ファイバースコープでサーチ（検索）開始 12:15 1名発見救出不能 12:20 活動終了		
活動概要	1 倒壊建物に隊員を配置し、携帯型ファイバースコープ及び音響探知器を用いてサーチ（検索）活動を実施した。 2 「瓦礫の下から音がする。」という情報に対し、検索資機材を活用して検索すると要救助者を発見した。 3 救出を試みたが、巨大な瓦礫が障害となり、救出には至らなかった。		
使用資機材	携帯型ファイバースコープ 1 音響探知器 1		
その他	1 リゾート地におけるマンションの崩壊現場であった。 2 現場は、腐敗臭が強く漂っていた。		

No. 15	8月20日 13時15分	場所	ジャラケント地区第4区
災害状況	耐火造5/0リゾートマンションの1、2階が座屈しており、1階に子供がいるとの情報で、既にドイツ、イタリア及びスペインのチームがサーチ（検索）済みであったが、再度日本チームに対して要請してきたもの。		
時間経過	13:15 出場 13:26 現場到着 13:35 シリウスによるサーチ（検索） 14:00 音響探知器によるサーチ（検索） 14:25 救助犬によるサーチ（検索） 14:30 携帯型ファイバースコープによるサーチ（検索） 15:15 現場引き揚げ 16:02 帰本部		
活動概要	1 地元住民の情報によりサーチ（検索）場所を限定し、シリウスで測定するも生体反応はなかった。 2 引き続き、音響探知器よりサーチ（検索）を実施したが、音響反応もなく、更に救助犬及び携帯型ファイバースコープによるサーチ（検索）を実施したが要救助者の発見に至らなかった。 3 サーチ（検索）した内容を地元住民に対して説明を行い、納得を得た後現場を引き揚げた。		
使用資機材	シリウス 1 携帯型ファイバースコープ 2 音響探知器 1		
その他	1 日本救助犬との連携活動を実施した。 2 日本チームのきめ細かい活動に、関係者から感謝を受けた。		

No. 16	8月20日 16時05分	場所	ヤロヴァ地区
災害状況	耐火4/0共同住宅が完全に崩壊しており、軍の救助隊がすでに活動中であつた。前日に子供が生存状態で救出されており、他にも子供が中にいるとの情報だつた。		
時間経過	16:05 第3班出場 16:20 現場到着 16:30 活動開始 16:30 第2班出場 16:45 第2班現場到着 17:20 重機によりコンクリート排除 17:25 第1班出場 17:35 第1班現場到着 17:50 活動終了 17:55 状況説明 18:00 北側部分サーチ(検索)開始 18:10 活動終了 18:35 帰本部		
活動概要	1 軍関係者の情報により生存者がいる可能性がある場所(サーチ箇所)を特定し、第一に音響探知器によるサーチ(検索)を開始した。 2 音響反応はなく、続いて携帯型ファイバースコープを瓦礫の隙間に挿入してのサーチ(検索)を実施して、映像により布団を確認した。 3 布団の手前及び下のコンクリートを削岩機により破壊した後、エンジンカッター及び鉄線鋏により鉄筋を切断して障害物を除去して内部を確認したが、要救助者は発見できなかった。 4 更に別の情報により北側に移動して、携帯型ファイバースコープ及び音響探知器によりサーチ(検索)したが要救助者の発見に至らなかった。 5 活動内容を軍関係者に対して説明を行い、納得を得た後、現場を引き揚げた。		
使用資機材	エンジンカッター 1 鉄線鋏 1 削岩機(軍所有) 1 携帯型ファイバースコープ 1 削岩機 1 音響探知器 1 グラインダー(軍所有) 1		
その他	1 足場が悪く、瓦礫が非常に崩れやすく腐敗臭が漂う現場だつた。 2 この現場から生存者が救出されていたことから、多数の衆人監視の中での活動であつた。		

No. 17	8月20日 18時00分	場所	ヤロヴァ地区
災害状況	耐火造4/0の建物が空間がないほど崩壊しており、内部に要救助者が閉じ込められているという情報であった。		
時間経過	18:00 出場 18:02 現場到着 検索するも発見できず 18:15 状況説明 18:18 状況説明 18:25 帰本部		
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地元住民の情報により、要救助者がいたという場所を特定し、ストライカーにより携帯型ファイバースコープを挿入できる隙間を作った。</li> <li>2 現場は、完全に瓦礫に埋没していて、腐敗臭が漂っていたが、要救助者は確認出来なかった。</li> <li>3 活動内容を地元住民に対して説明を行い、納得を得た後に現場を引き揚げた。</li> </ol>		
使用資機材	携帯型ファイバースコープ 1 ストライカー 1 懐中電灯 1		
その他	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 現場は、災害対策本部の北側40mの場所である。</li> <li>2 要救助者の救出は困難を極め、重機を活用しなければならない旨を地元住民に説明し、納得を得た後現場を引き揚げた。</li> </ol>		

No. 18	8月20日 19時00分	場所	ヤロヴァ地区
災害状況	耐火4/0共同住宅が完全に崩壊しており、階層も判断できない状況であった。トルコ軍から、瓦礫を重機で取り除いたことによりできた空間を、サーチ（検索）してほしいという要請であった。		
時間経過	<p>19:00 出場</p> <p>19:14 現場到着</p> <p>19:33 要救助者発見</p> <p>19:37 現場引き揚げ</p> <p>19:51 帰本部</p>		
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 重機により瓦礫を排除した空間を音響探知器によりサーチ（検索）するも音響反応はなかった。</li> <li>2 隙間から懐中電灯をあてて、視認により内部を確認したところ、すでに変色している要救助者を発見した。なお、腐敗臭も漂っており、すでに社会死と判断した。</li> <li>3 軍に対して状況を説明して、納得を得た後に現場を引き揚げた。</li> </ol>		
使用資機材	<p>音響探知器 1</p> <p>懐中電灯 1</p>		
その他	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 すでに死亡が確認でき、死体を出すためには重機を活用しても長時間かかる旨を軍に説明して、納得を得た。</li> </ol>		

No. 19	8月21日 17時15分	場所	ヤロヴァ地区
災害状況	耐火造5/0共同住宅が壁、柱が押しつぶれた状態で崩壊していた。地元住民によると、遊びに来ていた人が4階部分に閉じ込められているという情報だった。		
時間経過	17:15 出場 17:20 現場到着 17:25 活動開始 17:40 活動終了 17:45 状況説明 17:50 現場引き揚げ 18:00 帰本部		
活動概要	1 携帯型ファイバースコープ及び音響探知器により、4階部分のサーチ（検索）を実施したが映像及び音響による要救助者の確認はできなかった。 2 地元住民を東側路上に退避させた後、シリウスによる測定を実施、完全にフラット波形で生体反応はなかった。 3 地元住民に対して、状況を説明して納得を得た後、現場を引き揚げた。		
使用資機材	携帯型ファイバースコープ 1 音響探知器 1 シリウス 1		
その他	1 現地関係者等に、十分な説明を行い理解と感謝が得られた。		

No. 20	8月21日 23時27分	場所	ヤロヴァ地区
災害状況	耐火4/0共同住宅が完全に崩壊して、瓦礫の山と化しており、中から声が聞こえるという情報を地元住民から得た。足場が非常に悪く、声が聞こえるという部分は、半径1m、奥行き2m程度の空洞となっていた。		
時間経過	23:27 出場 23:42 現場到着 23:50 活動開始 23:51 救助犬出場 23:55 救助犬現場到着 0:36 活動終了 0:41 住民に対する説明 0:48 現場引き揚げ 1:00 帰本部		
活動概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 投光機により照明を実施した後、救助犬によるサーチ（検索）を開始したが、生体反応が得られなかった。</li> <li>2 その後、携帯型ファイバースコープ及び音響探知器により検索を実施したが、要救助者を確認できなかった。</li> <li>3 更に、2ヶ所のポイントについてシリウスでサーチ（検索）実施したがフラット波形で生体反応は得られなかった。</li> <li>4 住民に対して状況を説明して納得を得た後、現場を引き揚げた。</li> </ol>		
使用資機材	シリウス 1 携帯型ファイバースコープ 1 投光機 1		
その他	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 夜間で非常に暗く、瓦礫が崩れやすくて足場が悪い現場だった。</li> <li>2 日本の災害救助犬チームと連携活動を実施した。</li> </ol>		

No. 21	8月22日 4時34分	場所	ヤロヴァ地区
災害状況	耐火建物5/0共同住宅が崩壊しており、ボランティア（坑夫）が救出活動中に血のついた毛布を発見して、血が新しいということで出場を要請したものの。		
時間経過	4:34 出場 4:37 現場到着 4:42 携帯型ファイバースコープによりサーチ（検索）を開始 4:48 余震発生・隊員一時退避 4:51 再度携帯型ファイバースコープによりサーチ（検索）を開始 4:58 毛布を発見 5:20 シリウスによる測定開始 5:30 住民に対して説明 5:34 現場引き揚げ 5:37 帰本部		
活動概要	1 ボランティア（坑夫）の設定した横穴（半径1m、奥行き4m）から隊員2名が進入、携帯型ファイバースコープによるサーチ（検索）を実施したが、4:48余震が発生したため、一旦全員を退避させた。 2 安全を確認後、再度サーチ（検索）を開始して血のついた毛布を発見したが、要救助者を見ることができなかった。 3 住民を東側道路に退避させた後、シリウスにより測定を実施したが生体反応は得られなかった。 4 地元住民に対して、生体反応がないことと血痕がかなり時間が経過していることを説明して、納得を得た後、現場を引き揚げた。		
使用資機材	シリウス 1                  ロープ 1 携帯型ファイバースコープ 1                  安全帯 2 投光器 1		
その他	1 活動中に余震（体感で震度1程度）が発生した。 2 夜間で非常に暗く、瓦礫が崩れやすくて足場が悪い現場だった。		

